

研究テーマ名	日本型ラウンドアバウトの普及加速に向けての調査研究
背景と目的	<p>現時点では全国で160余のラウンドアバウト(RAB)が整備されるに至っているが、先進諸国の中での普及レベルにおいては未だ緒に就いたばかりの状況である。本研究プロジェクトでは、日本で特に重視されると考えられる、省スペース、省コスト、簡易設計、多様な利用者、合意形成プロセスなどの課題対応について、我が国独自のスペックや手法を検討し、諸外国との相違を明らかにし、これらを積極的に発信していくことにより、日本のRAB普及促進に資することを目的とする。</p> <p>2023年度は、国土交通省の協力により、RABに関するニーズに関するアンケート調査を全国の国県市町村などを対象に実施し、1,610機関から回答を得ている。この結果を利用して、2024年度は、国交省・警察庁・市町などの行政機関と連携して実交差点での日本型RABの社会実験を実施するとともに、普及促進に向けてのセミナー等を開催することを計画している。</p>
期待される成果	<ul style="list-style-type: none">- 先見性：信号機撤去ニーズ、交差点の自動運転対応などを見据えた日本型RABの検討- 実際性：省コストの日本型RABのスペックや導入手法を明確化し、社会実装加速- 独自性：日本独自のRABスペックを提示、諸外国のRABとの相違を明示